

第4回技術委員会（方法書第2回審議）での委員意見と事業者等の見解要旨

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨（案）
1	1.6.5 事業計画	片谷	<p>・収集ルートを通ずる歩行者の安全確保については、組合だけではないが、他県の事例で比較的道路の狭いところを収集車が通るようなケースで、道路管理者との協議の中でガードレールや歩道が新設された事例もあるもので、留意してほしい。</p> <p>資料4-2</p> <p>・現状は未定であるが、脱臭装置は新しいものをつけるため、カタログからスペックなどのデータにより脱臭効率はわかる。類似事例を参考に評価するというの、悪臭のごく一般的な調査方法であると思われるので、休炉時に用いている脱臭装置の構造や能力を示さない、悪臭についての予測評価方法の妥当性が判断できない、とする関係機関からの質問等に対する事業者の見解は妥当だと思う。</p>	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ご指摘の点も踏まえ、歩行者の安全確保に努めます。
2	1.6.6 環境保全の方針と主な保全の内容	片谷	<p>・大気の1時間値の予測において、ブルーム・パフモデルで計算した結果が濃度の最大値を出しているのかという点で疑問が残る。その時にマスコンモデル・移流パフで計算された濃度の最大値との比較を行うことでチェックが可能であるので、ブルーム・パフモデルだけに頼らない1時間値の予測を考えていただきたい。</p>	<p>【第2回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業者は回答を求めた発言ではないため。
3	3.2.1 大気質	片谷	<p>・大気の1時間値の予測において、ブルーム・パフモデルで計算した結果が濃度の最大値を出しているのかという点で疑問が残る。その時にマスコンモデル・移流パフで計算された濃度の最大値との比較を行うことでチェックが可能であるので、ブルーム・パフモデルだけに頼らない1時間値の予測を考えていただきたい。</p>	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ブルーム・パフモデルでの計算値を基本に予測を行います。確認のため、マスコンモデル及び移流パフモデルで計算した最大値と比較し、1時間値を予測します。
4	3.2.1 大気質	花里	<p>・現施設のばいじん量が少ないということであるが、湖は河川と異なり化学物質が堆積するところであり、生態系については影響を受けやすい場所と云う御認識を持っていただきたい。その上で、雨水等により河川を通じてどういった経路で諏訪湖に化学物質が入り込む可能性があるか、再度ご検討いただきたい。</p> <p>・新施設稼働時だけでなく、解体工事の時にダイオキシン類などが諏訪湖に流入することも否定できないので、チェックすることが必要なのではないか。</p>	<p>【第2回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設から排出された化学物質が雨水を通じて湖に流れ込む状況が想定され、水質検査を行う中で測定は可能だと考えますが、ごみ処理施設の影響ばかりではないため、施設から排出されるガスと流入する物質との関連付けは困難だと考えられます。また、水系としては建設地は天竜川水系であり、おおります。また、水系としては建設地は天竜川水系であり、直接天竜川へ流れ込み、諏訪湖への流入はないと考えます。 解体工事時には、排出されるダイオキシン類や水等が出ないような対策を講じた工事をを行う必要があることから、その点を準備書に明記します。また、厚生労働省からの通知により、解体時に排出される粉じんや水をモニタリングしながら工事を進めることとさせていただきます。これに基づいて工事をを行います。

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨（案）
5	3.2.1 大気質	鈴木	<p>・現地は諏訪湖と約240mの高低差があるので、煙突の高さより高いところ起こるほど激しい接地逆転層が生じると考えにくいが、沈降性の逆転層が起こって空気が上から押さえられた時にどうなるのかが気になる。当地域では、上層気象の観測地点よりも低い場所に住民が多く住んでおり、沈降性逆転層が起こったときに低い所は調査していないのでわからない、ということではさまざまな。沈降性逆転層も考慮した低い場所での上層気象調査地点の設置が必要ではないか。</p> <p>【片谷委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地上調査地点もうまく活用できないのではないかと思うので、次回までに確認されたい。 	<p>【第2回審議での回答】</p> <p>ご質問の内容をよく確認し、お答えします。</p> <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上層気象調査は、逆転層の出現高度を把握するほか、大気拡散の計算式に活用する上空の風速を推定するのに必要なものであり、影響範囲の中央付近の地上気象調査地点と同じ地点での調査が最良であることから、現在の調査地点で調査したいと考えます。逆転層が諏訪湖畔近隣の低地で発生した時の状況把握については、建設地の地上気象調査と諏訪湖に近い調査地点での地上気象調査から逆転層の発生頻度を把握し、それを大気拡散の計算式に反映させて影響を予測・評価します。
6	3.2.1 大気質	鈴木	<p>・施設の環境大気の調査は高さをどのくらいかの地点で行うのか。排出ガスの出所で調査すべきではないか。煙突の高さとやまびこ公園の高さが一緒なので、現施設の真下で調査すれば影響はないが、煙突の高さで風が吹けば公園の方に流れると考えられるので、そうした考慮は重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査における配慮は技術委員会のやりとりでわかるが、方法書がそういう表現になっていないので、住民の方にはわかりづらい。 	<p>【第2回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現施設の大気質の調査地点は、「長野県環境影響評価技術指針マニュアル」に基づいて施設の地上から1.5m程度の高さで行います。予測・評価では、煙突から出る濃度とガス量から拡散の計算式を設定するので、大気の流れは把握できると考えます。 【事後回答】 ・現施設における大気質の調査位置については、住民の方が理解できるように、準備書で具体的にわかりやすく記載します。
7	3.2.1 大気質	野見山	<p>資料4-12</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PM2.5について調査しないということだが、長野県も含めた国内で大きな医学調査が行われはじめていて、小児の健康への影響が懸念されている。次世代の子供は少なくなっているし、当地域では地形がすり鉢状になっていて、PM2.5も降下していく可能性がある。PM2.5の測定が不可能であれば別であるが、測定が可能であるので、できれば積極的に測定する方向で検討してもらいたい。 	<p>【第2回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査方法について、県の水大気環境課と協議する中で検討してまいります。 【事後回答】 ・県水大気環境課と協議した結果、PM2.5については現状では影響予測手法が確立しておりませんが、発生源の調査事例等の数値と岡谷IC局等の大気中のPM2.5の現況把握の数値を比較することなどにより簡易的な予測を行ない、準備書に示します。

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨（案）
8	3.2.2 騒音 3.2.3 振動	梅崎	<p>・収集ルートの路面の劣化は積雪と路面の凍結融解等により、恒常的に起こるのではないかと想像しているが、安全側の観点から騒音・振動の予測式に路面の劣化が反映されるような係数等があるなら考慮して予測すべきではないか。</p>	<p>【第2回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路面の平坦性を設定する際には、路面の悪い状況を想定したうえで、予測計算をかける形をとるようにいたします。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方法書で示した道路交通騒音の予測モデルは、路面の平坦性を補正する定量的な解析はできませんが、最新の予測式であるため、この手法で予測を行います。 ・方法書で示した道路交通振動の予測モデルは、路面の平坦性による補正項があるので、その点を考慮して予測を行い、評価及び保全対策に反映します。
9	3.2.5 悪臭	佐藤	<p>・ごみ量の予測において、新施設では、搬入されるごみ量は今の2.5倍くらいになる。現状ではやまびこ公園でも悪臭はしなかった印象があるが、今後どうなるのか。悪臭などのシミュレーションが必要なのではないか。</p>	<p>【第2回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪臭や大気質等、新施設の規模での予測・評価を行います。
10	3.2.7 土壌汚染	小澤	<p>・大気質は面的に評価していくことになると思うが、土壌汚染について、方法書P190 図3.2.9の調査の予定地点として、風向から別荘地に調査地点を設定するなどの考慮が必要ではないか。最大着地濃度等影響の大きい範囲はあらかじめ推測でき、それを踏まえて調査地点を増やすなど影響の大きい範囲に設定することができるのではないか。</p>	<p>【第2回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間的な前後としては、気象調査を加味して大気の予測・評価を行い、最大着地濃度の地点が明らかになりますが、この時点では現地調査は終了しているので、土壌汚染の調査に反映させることは難しいと考えております。方法書では、現状で考えられる風下側の代表的な地点を調査地点として設定しており、調査地点を増やすことは想定しておりません。 ・予測地点については簡易調査が可能だと思っておりますので、その点を検討します。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最大着地濃度及び出現距離を簡易的な計算式で予測したところ、影響を及ぼすと考えられる最大着地濃度の出現地点は風下側約600m～1.7kmの距離となりました。方法書のp190で示しました土壌汚染の調査地点は、主風向の風下側（西北西、南東）とそれに直交する方向で民家のある位置に設定しておりませんが、施設からの距離は概ね1km～1.5kmとなっております。妥当だと考えます。 <p>（別添「資料2の10番 関連資料」参照）</p>

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨（案）
11	2.3.9 植物	佐藤	<p>・ 方法書の資料にあるように、諏訪は植物の多様性のメッカである。やまびこ公園の植物の状況としては、かなり破壊されているもの、めずらしい植物がある。標高1000m前後というのは、植物の多様性の高いところなので、やまびこ公園の周りの調査をきちんと行うと、かなり重要な場所ということがわかってくる。それらも併せて調査してほしい。</p> <p>【亀山委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ しっかり植物の調査をしてもらいたいという意味なので、配慮されたい。 	<p>【第2回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植物の調査については、基本的に環境影響評価の手続の中で、影響の及ぶ範囲+αとして、建設地の周囲200mの範囲を詳細な現地調査を行います。
12	3.2.10 動物	亀山	<p>・ 夜間照明における野生動物への影響は、現在、はつきり捕らえられていないが、影響が大きくなる点をはつきりしている。最近、野鳥が減っており、相当激減している種類がある。岡谷市は野鳥の観察施設のメッカであり、鳥を大事にしてきた街ということもあることでその点を考慮し、今回は24時間稼働の施設ということで夜中も灯みたくないものは極端に少なくしていただくなど、あらかじめ抑えた形で検討されるよう設計等で十分配慮していただきたい。</p>	<p>【第2回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 影響を及ぼさないように設計等において配慮してまいります。
13	3.2.12 景観 3.2.13 触れ合い活動の場	亀山	<p>・ 方法書P121に触れ合い活動の場の状況として、鳥居平やまびこ公園とその周辺のことが書いてあるが、やまびこ公園の種別、規模、施設・設備などの記述が非常に少ない。建設地の周辺は、鳥居平やまびこ公園のほか、塩嶺王城パークラインややまびこスケートの森があり、立地条件の特徴として触れ合い活動の場や景観という観点からみると非常に大事な場所であるが、方法書ではそれについて認識があまりなされていないような気がする。</p> <p>・ 方法書では、やまびこ公園の景観については簡略化した調査しか行われず、冬季は調査をしないこととなっている。公園は冬に使用されないかもしれないが、スケートの森は冬使用施設なので、簡略化の調査対象としていいのか。触れ合い活動の場も簡略化としているが、冬調査しないという場所か認識していただいている。触れ合い活動の場や景観の調査について簡略化するようにならないようにされたい。</p>	<p>【第2回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 触れ合い活動の場における調査方法を整理して次回審議時に示します。 【事後回答】 ・ 立地特性から、建設地周辺の触れ合い活動の場としては、鳥居平やまびこ公園、やまびこスケートの森、塩嶺王城パークライン及び内山公園が挙げられます。（別添「資料2の13番 関連資料」1参照） ・ 都市公園である鳥居平やまびこ公園は、市民の重要な触れ合い活動の場であり、触れ合い活動の場における予測・評価にとどまらず、関連するものについて幅広く予測・評価を行います。（別添「資料2の13番 関連資料」2参照） ・ 触れ合い活動の場の調査については、「分布」及び「主要な触れ合い活動の場」について、今回挙げた施設も含めた範囲において、より詳細な調査を実施するよう修正します。（別添「資料2の13番 関連資料」3参照） ・ なお、景観について、現施設の現状及び周辺施設の利用期間から、調査・予測は鳥居平やまびこ公園のみで行い、簡略化項目と位置づけしております。方法書では、p203、205に示すように「景観資源及び構成要素」、「主要な景観」について調査を行うほか、フォトモンタージュ等による予測を行います。（別添「資料2の13番 関連資料」4参照）